

町立奥出雲病院 新改革プラン 点検・評価
(平成 29 年度)

1. 事業報告

(1) 外来・入院患者数の動向

外来患者数は1日平均149.2人、年間延患者数36,407人で前年度比較1,566人の減少(対前年度比95.9%)、入院患者数は1日平均110.9人(病床利用率79.2%)、年間延患者数40,470人で前年度比較311人の増加(同100.8%)となりました。

外来患者数は常勤医師が1名減になったこともあり、直近10年間で最も少ない数値でした。一方、入院患者数は病床数の減(158床から140床に変更)もありましたが、わずかながら前年より増加となりました。

(2) 収益的収支

本年度の総事業収益は2,027,831千円で前年度比較36,692千円の増収(対前年度比101.8%)、収益構成は、医業収益が1,551,831千円(同99.3%)、医業外収益が476,000千円(同111.0%)です。病床数を削減したことで不採算地区該当となり、特別交付税の増に伴い一般会計繰出金総額が521,119千円と前年度比較51,938千円の増額となったことが主な収益増の要因です。

一方、総事業費用は1,933,454千円で、前年度比較3,109千円増加(対前年度100.2%)しました。内訳は医業費用が1,830,842千円(同100.2%)、医業外費用が102,612千円(同100.0%)です。医業費用の主なものは、給与費が1,160,704千円、材料費が209,119千円、経費が267,738千円、減価償却費が186,492千円でした。

以上により、営業(医業)損失は279,011千円、経常利益及び純利益は94,377千円となりました。

(3) 資本的収支

資本的収入は政府企業債などの起債による借入81,200千円と建設改良に対する県補助金13,068千円で合計94,268千円でした。資本的支出は建設改良費94,632千円と企業債等償還元金303,052千円で合計397,684千円を支出しました。資本的収入額が支出額に不足する額303,416千円は、損益勘定留保資金で補填しました。

(4) 今後の課題について

①経営改善

病院の収益に影響する常勤医師の人員体制が厳しい状況ではありますが、平成30年4月に国が改定した診療報酬等の月々の実績を基に経営分析を重ねながら増収を図り、経費については引き続き業務や材料の効率化・合理化による削減に取り組むなど経営改善に努めます。

②常勤医師の確保

医師の地域偏在が全国的な課題となっている中、当院においても平成29年4月からは常勤医師が平成22年度以来の5名体制となりましたが、島根大学や他の病院の支援を受けながら、外来、入院、健康診断や産業医などの業務、そして救急告示病院としての機能を維持できました。しかし、依然、当院の医師には多大な負担をかけている状況が続いており、引き続き常勤医師の確保は喫緊の最重要課題であり、島根大学、島根県、地域枠推薦を受けた医師・医学生

との関係の更なる強化に努め、また、人材確保・育成として研修医・医学生の受入れ、中・高校生の職場体験などにも積極的に取り組みます。

③医師の働き方改革

長時間労働による過労死等に端を発した「働き方改革」への対応は、極めて重要な課題となっています。特に、医師については、国から「医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組」として様々な改善内容が通知されており、医師の人員体制が厳しい当院にとっては大きな課題であり、対応策について検討を進めます。

④地域医療構想

団塊の世代が後期高齢者となる2025年には、医療と介護の需要が同時に増加することが想定されていることから、「地域医療構想」を基に病床の機能分化及び連携、在宅医療・介護の推進、地域包括ケアシステムの構築といった医療・介護サービスの提供体制の改革が進められています。当院においてもこれらの状況や町の方針を踏まえて、自治体病院として、また、町の中核病院として病院の機能をどういう位置づけにしていくのか検討を進めます。

2. 数値目標

(1) 医療機能・品質等指標に係る数値目標

項目	年度	28年度 実績	29年度			摘要
			目標 ①	実績 ②	差 ②-①	
研修医受入件数		2 件	5 件	3 件	△ 2 件	
在宅復帰率（包括）		77.9 %	84.7 %	82.0 %	△ 2.7 %	
平均在院日数		18.0 日	18.0 日	19.0 日	1 日	
分娩件数		80 件	82 件	56 件	△ 26 件	
褥瘡発生率		0.7 %	1.05 %	2.6 %	1.6 %	
転倒・転落発生率		3.9 ‰	3.25 ‰	3.5 ‰	0.3 ‰	
医療相談（MSW）		3,129 件	2,550 件	2,961 件	411 件	
定期カンファレンス（リハ関係）		36 回	36 回	36 回	0 回	

(2) 経営指標に係る数値目標

項目	年度	28年度 実績	29年度			摘要
			目標 ①	実績 ②	差 ②-①	
① 収支改善に係るもの						
経常収支比率		103.1 %	108.8 %	104.9 %	△ 3.9 %	
医業収支比率		85.5 %	89.5 %	84.8 %	△ 4.7 %	
医業未収金		3,237 千円	3,300 千円	2,516 千円	△ 784 千円	
② 経費削減に係るもの						
給与費対医業収益比率		74.1 %	70.9 %	74.8 %	3.9 %	
材料費対医業収益比率（薬品含む）		14.2 %	14.4 %	13.5 %	△ 0.9 %	
委託費対医業収益比率		7.5 %	7.0 %	8.1 %	1.1 %	
後発品使用割合		68.2 %	68.5 %	80.2 %	11.7 %	
薬品在庫の適正化		5,067 千円	4,900 千円	4,304 千円	△ 596 千円	
検査試薬等納入価		-	3.0 %減	0.1 %減	△ 2.9 %減	H29よりH27実績の3%減を目標
③ 収入確保に係るもの						
入院患者数		40,159 人	43,800 人	40,470 人	△ 3,330 人	
入院患者数（1日あたり）		110.0 人	120.0 人	111.0 人	△ 9.0 人	
病床利用率		69.6 %	85.7 %	79.2 %	△ 6.5 %	
外来患者数		37,937 人	39,926 人	36,407 人	△ 3,519 人	
外来患者数（1日あたり）		156.3 人	163.6 人	149.0 人	△ 14.6 人	
薬剤管理指導件数		32 件	180 件	158 件	△ 22 件	
外来心電図件数		993 件	910 件	1,013 件	103 件	
エコー件数		257 件	336 件	255 件	△ 81 件	
入院リハ処方数		34 件/月	30 件/月	32 件/月	2 件/月	
訪問リハ単位数		196 /月	250 /月	256 /月	6 /月	
栄養指導件数		535 件	755 件	849 件	94 件	
ドック・健診件数		2,336 件	2,375 件	2,344 件	△ 31 件	
④ 経営の安定性に係るもの						
常勤医師数		6 人	6 人	5 人	△ 1 人	
企業債残高		3,057 百万	2,834 百万	2,835 百万	1 百万	

3. 目標達成に向けた具体的な取り組みの実施状況

項目	取組・目標	実施状況の点検結果	評価所見
1. 地域医療構想を踏まえた役割の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ①入院及び外来医療の提供 ②在宅系サービスの提供（訪問リハビリ・訪問診療） ③ドック・健診等の提供 ④医療・介護・福祉の連携支援（中心的役割） ⑤医療情報・医療技術等の教育活動 	①～⑤実施できている	概ね目標通りに実施されている。
2. 経営の効率化	(1) 収支改善に係るもの ①未収金対策	目標3,300千円に対し2,516千円	目標達成。
	(2) 経費削減に係るもの ①材料費節減 ②薬剤費（在庫）の削減 ③委託料見直し ④光熱費の節減 ⑤消耗品費等の削減	<ul style="list-style-type: none"> ①診療材料検討委員会を中心に継続的に行っている。 ②目標達成の上、さらなる削減ができた。 ③委託料及び委託業務の見直しを継続的に行った。 ④灯油の毎月見積入札等経費節減対策に努めた。 ⑤破損・修理・購入等稟議厳格化による経費節減意識の定着を継続的に行った。 	概ね目標通りに実施されている。
	(3) 収支確保に係るもの ①10:1看護基準の堅持と新たな施設基準の取得 ②指導及び検査件数の増加 ③高次病院及び診療所（開業医）等との紹介・逆紹介の推進 ④ドック・健診実施件数の維持等	<ul style="list-style-type: none"> ①10:1を堅持した。 ②ほとんどの項目で前年度並みか前年度より増となった。 ③紹介逆紹介等について他院との連携をすすめた。ドクターヘリの活用を行った。 ④例年並みの件数を維持できた。 	概ね目標通りに実施されている。
	(4) 経営の安定性に係るもの ①経営会議の定例開催実施 ②管理運営会議での活発な意見交換 ③職員の適正配置等 ④栄養科の業務委託 ⑤中・高校生の職場体験受入れ ⑥奨学金貸与制度を活用した免許職の確保 ⑦病院祭等による地域確保（病院理解） ⑧外来待ち時間調査 ⑨患者満足度調査 ⑩その他 ・各種会議・委員会の設置 ・院内研修会・講習会の実施 ・院外研修会等への積極的参加 ・学会等での発表	<ul style="list-style-type: none"> ①定期的に開催し、経営について議論した。 ②毎月開催され、活発な意見交換をした。 ③適正な配置に努めている。 ④給食調理業務委託を行っている。 ⑤地元の学校を中心に受入れを行った。 ⑥奨学金貸与中 2名 ⑦隔年開催のため、今回は平成30年度。 ⑧隔年実施のため、今回は平成30年度。 ⑨退院時に実施している。 ⑩目標通り実施できている。 	概ね目標通りに実施されている。
3. 再編・ネットワーク化	(1) 再編についての検討 現段階では再編を行う状況に無いと結論	-	※評価対象外
	(2) ネットワーク化についての検討 ①しまね医療情報ネットワーク等医療ICTを活用しながら今後の連携・ネットワークの構築に努める ②近隣病院との情報共有・連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ①しまね医療情報ネットワークへの接続を継続。 ②全自病県支部各部門会議等による情報共有を行った。また、県内医療機関との連携強化を進めている。 	概ね計画通りに実施されている。
4. 経営形態の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ①病床数削減 ②介護療養型病床の廃止（H29年度末） <p>経営については当面現在の経営形態を続行する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①H29年4月より病床数を158床から140床に削減した。 ②今後の経営のあり方を含めて継続審議とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ①は計画通り実施している。 ②は継続審議とした。

4. 収支計画の実施状況

(1) 収支計画（収益的収支）

（単位：千円）

区分	年度	平成28年度 実績 (参考)	平成29年度		差 ②-①
			目標 ①	実績 ②	
収 入	1. 医 業 収 益 a	1,562,258	1,690,640	1,551,831	△ 138,809
	(1) 料 金 収 入	1,354,510	1,480,478	1,341,853	△ 138,625
	(2) そ の 他	207,748	210,162	209,978	△ 184
	うち 他 会 計 負 担 金	78,569	79,794	80,279	485
	2. 医 業 外 収 益	428,881	471,443	476,000	4,557
	(1) 他 会 計 負 担 金・補 助 金	390,612	435,442	440,840	5,398
	(2) 国（ 県 ） 補 助 金	0	0	0	0
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	31,487	28,813	28,954	141
	(4) そ の 他	6,782	7,188	6,206	△ 982
	経 常 収 益 (A)	1,991,139	2,162,083	2,027,831	△ 134,252
支 出	1. 医 業 費 用 b	1,827,685	1,888,429	1,830,842	△ 57,587
	(1) 職 員 給 与 費 c	1,157,647	1,198,227	1,160,704	△ 37,523
	(2) 材 料 費	222,365	242,776	209,119	△ 33,657
	(3) 経 費	253,641	263,046	267,738	4,692
	(4) 減 価 償 却 費	187,311	174,912	186,492	11,580
	(5) そ の 他	6,721	9,468	6,789	△ 2,679
	2. 医 業 外 費 用	102,660	99,631	102,612	2,981
	(1) 支 払 利 息	58,675	54,184	54,203	19
	(2) そ の 他	43,985	45,447	48,409	2,962
	経 常 費 用 (B)	1,930,345	1,988,060	1,933,454	△ 54,606
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	60,794	174,023	94,377	△ 79,646	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	0	0	0	0
	2. 特 別 損 失 (E)	0	0	0	0
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	0	0	0	0
純 損 益 (C)+(F)	60,794	174,023	94,377	△ 79,646	
累 積 欠 損 金 (G)	1,677,450	1,503,427	1,583,073	79,646	
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	343,639	446,478	312,563	△ 133,915
	流 動 負 債 (イ)	421,952	435,665	440,297	4,632
	うち 一 時 借 入 金	0	0	0	0
	翌 年 度 繰 越 財 源 (ウ)	0	0	0	0
	当 年 度 同 意 等 債 で 未 借 入 又 は 未 発 行 の 額 (エ)	0	0	0	0
差 引 不 良 債 務 (オ) {(イ)-(エ)} -{(ア)-(ウ)}	78,313	△ 10,813	127,734	138,547	
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	103.1	108.8	104.9	△ 3.9	
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	5.0	△ 0.6	8.2	8.9	
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$	85.5	89.5	84.8	△ 4.7	
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{c}{a} \times 100$	74.1	70.9	74.8	3.9	
地 方 財 政 法 施 行 令 第 15 条 第 1 項 に よ り 算 定 し た 資 金 の 不 足 額 (H)	78,313	△ 10,813	127,734	138,547	
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	5.0	△ 0.6	8.2	8.9	
病 床 利 用 率	69.6%	85.7%	79.2%	-6.5%	

(2) 収支計画(資本的収支)

区分	年度	平成28年度 実績 (参考)	平成29年度		差 ②-①
			目標 ①	実績 ②	
収 入	1. 企業債	77,200	74,000	81,200	7,200
	2. 他会計出資金	0	0	0	0
	3. 他会計負担金	0	0	0	0
	4. 他会計借入金	0	0	0	0
	5. 他会計補助金	0	0	0	0
	6. 国(県)補助金	5,432	10,000	13,068	3,068
	7. その他	0	0	0	0
	収入計 (a)	82,632	84,000	94,268	10,268
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)	0	0		0
	前年度許可債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0
純計(a)-(b)+(c) (A)	82,632	84,000	94,268	10,268	
支 出	1. 建設改良費	83,070	84,000	94,632	10,632
	2. 企業債償還金	288,051	303,052	303,052	0
	3. 他会計長期借入金返還金	0	0	0	0
	4. その他	0	0	0	0
	支出計 (B)	371,121	387,052	397,684	10,632
差引不足額 (B)-(A) (C)	288,489	303,052	303,416	364	
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	288,489	303,052	303,416	364
	2. 利益剰余金処分量	0	0	0	0
	3. 繰越工事資金	0	0	0	0
	4. その他	0	0	0	0
	計 (D)	288,489	303,052	303,416	364
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)	0	0	0	0	
実質財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0	

- 複数の病院を有する事業にあつては、合計表のほか、別途、病院ごとの計画を作成すること。
- 金額の単位は適宜変更することも可能。(例)千円単位。
⇒注釈を適用し、単位を「千円」とした。

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

	平成28年度 実績 (参考)	平成29年度		差 ②-①
		目標 ①	実績 ②	
収益的収支	(16,594) 469,181	(30,423) 515,236	(30,137) 521,119	△286 5,883
資本的収支	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0
合計	(16,594) 469,181	(30,423) 515,236	(30,137) 521,119	△286 5,883

(注)

- ()内はうち基準外繰入金額を記入すること。
- 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰出金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。
⇒医師確保対策に対する繰出で性質的には基準内であるが、過疎ソフト充分ににつき区分するため基準外としている。